

平成22年度

橋梁技術発表会及び講演会

-安全・安心な鋼橋-

参加費無料
定員**350**名
申込先着順

平成22年

日時 **10/29** 金 13:00~16:55

会場

ドーンセンター

(大阪府立男女共同参画・青少年センター7Fホール)
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49
Tel.06-6910-8500

13:00~13:10

開会の辞

社団法人日本橋梁建設協会
会長 須賀 安生

13:10~13:25

橋建協レポート

こんなにもある鋼橋のすばらしさ!!
需要創造特別委員会

申込方法

- ①Fax. **06-6535-5086**(裏面の用紙に記載)
- ②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は8月上旬から)

申込期限

平成22年10月15日(金)

懇親会

ドーンセンター1階「パフォーマンススペース」にて
17時10分から開催します。

会費 **1,000円**

参加ご希望の方は、発表会当日受付にてお申し込みください。

連絡先

社団法人 日本橋梁建設協会 近畿事務所
〒550-0005 大阪市西区西本町1-8-2 三晃ビル5階
Tel. 06-6533-3238

継続教育

CPDS認定予定

- ※東京地区は 10月13日(水) (特別講演講師:東京大学 小澤教授)
東北地区は 11月 5日(金) (特別講演講師:東北学院大学 中沢教授)
中部地区は 11月11日(木) (特別講演講師:名城大学 宇佐美教授)
九州地区は 11月24日(水) (特別講演講師:長崎大学 中村教授)開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望のかたはダウンロードするようお願いします。

アクセス



- 京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を通過して1番出口より東へ約350m。
- 地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m。
- JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m。

第1部:技術発表会

13:25~14:10

1.都市内高速道路ランプ橋の
特殊架設工法による施工

ー第二京阪道路 門真ジャンクション工事報告ー
技術委員会架設小委員会 浦田 保

14:10~14:55

2.鋼床版橋梁のデッキプレート
増厚による疲労耐久性の向上

ーデッキプレート最小板厚見直しに関する
国土交通省の事務連絡を受けてー
技術委員会鋼床版小委員会 夏秋 義広

14:55~15:40

3.上路アーチ橋の補修および
耐震補強工事報告

ー主要国道の規制をとまなう大規模工事の調査から施工ー
保全委員会保全技術小委員会 小深田 祥法

15:40~15:50

休憩

第2部:特別講演会

15:50~16:50

1.わが国における複合橋梁の
将来展望

大阪工業大学 工学部
都市デザイン工学科
教授 栗田 章光



16:50~16:55

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会

1 都市内高速道路ランプ橋の特殊架設工法による施工

—第二京阪道路 門真ジャンクション工事報告—

門真ジャンクションは、近畿自動車道と第二京阪道路を結び、近畿自動車道ならびに大阪府中央環状線を跨ぐ合成床版を有する鋼連続非合成細幅箱桁4橋(A, B, C, Dランプ橋)を架設する工事です。近畿自動車道等の主要幹線道路オーバー一部および供用中である物流倉庫上での架設作業となり市街地特有の厳しい制約条件をクリアするため、Aランプ橋は「大ブロック回転横取り工法」、Bランプ橋は「近畿自動車道全面通行止めによる大ブロック一括架設工法」、Cランプ橋は「大型ベントを使用した張出架設工法」などの特殊架設工法を用いて施工しました。これら特殊架設工法の施工事例について報告します。

2 鋼床版橋梁のデッキプレート増厚による疲労耐久性の向上

—デッキプレート最小板厚見直しに関する国土交通省の事務連絡を受けて—

近年、重交通路線に位置する一部の鋼床版橋梁において、供用期間の長期化にともなう疲労き裂が報告されるようになりました。鋼床版橋梁の耐久性を向上させる対策のひとつとしてデッキプレートを増厚し、重交通による鋼床版局所変形に起因する応力を低減する方法が提案されています。鋼床版小委員会では、閉断面リブとデッキプレート溶接部に着目し、国土交通省 国土技術政策総合研究所、独立行政法人土木研究所との三者共同研究など、デッキプレートを通するき裂に対するデッキプレートの増厚効果に関する検討を実施しております。ここでは、これまでに得られた知見のうち、デッキプレート増厚による疲労強度の向上効果、増厚する際の留意点や経済性等について報告します。

3 上路アーチ橋の補修および耐震補強工事報告

—主要国道の規制をともなう大規模工事の調査から施工—

本橋は、建設後50年が経過した鋼上路アーチ橋で、定期点検の結果、アーチ端支柱のフランジ基部に損傷が発見され緊急対策補強工事が実施されました。本工事は、こうした緊急性を有する損傷箇所を現場調査によって確認し、施工を考慮した設計を行いながら補修工事を実施した事例です。また耐震補強では、現行耐震設計基準を満足させるため、油圧式ダンパーおよび座屈拘束ブレースなどの制震技術を採用して補強を行っています。ここでは、主要国道の規制をともなう補修工事の調査から施工までの一連の内容を中心に紹介します。

特別講演会 講演者紹介

1 わが国における複合橋梁の将来展望

栗田 章光

大阪工業大学 工学部
都市デザイン工学科 教授

—略歴—

1946年 大阪府生まれ
1969年 大阪工業大学工学部土木工学科卒業
1971年 大阪工業大学大学院工学研究科
土木工学専攻修士課程修了
1971年 大阪工業大学工学部土木工学科助手
1982年 ドイツ ボーフム大学構造工学研究所
客員研究員
1992年 博士(工学)(大阪市立大学)
1995年 大阪工業大学工学部土木工学科教授
2000年 大阪工業大学構造実験センター長
2002年 大阪工業大学工学部
都市デザイン工学科(改名)教授
2007年 大阪工業大学学生部長
2009年 大阪工業大学国際交流センター長

委員会 研究会

(財) 鉄道総合技術研究所
SRC構造物設計標準に関する研究委員会委員兼幹事(元)
(社) 土木学会
新形式の鋼コンクリート複合橋梁調査研究小委員会委員長(元)
(社) 土木学会
鋼コンクリート合成構造連合小委員会委員長(元)
国土交通省中国地方整備局
志津見大橋上部工事設計施工検討委員会委員長(元)
(社) 土木学会
複合構造委員会委員
(社) 建設コンサルタンツ協会近畿支部
複合橋梁形式研究委員会委員長(元) ほか多数

所属学会 団体

(社) 土木学会
(社) 日本鋼構造協会
(社) 日本コンクリート工学協会
IABSE ほか

講演概要

複合橋梁は、合成橋梁と混合橋梁に分類される。今日まで、わが国においても種々の複合橋梁が開発され実用化されてきた。しかし、EU諸国では鋼橋とコンクリート橋との熾烈な競争の結果、わが国の複合橋梁よりも経済性に優れた各種の複合橋梁が実用化されている。これには設計法の違いも含まれている。本講演では、対象をI桁橋と箱桁橋ならびにアーチ橋に絞り、EU諸国での施工事例を可能な限り多く紹介し、今後のわが国における複合橋梁の発展に寄与したい。

FAX番号:06-6535-5086

平成22年度

橋梁技術発表会 [大阪地区]

参加申込書

所 属	団体名	所属
氏 名	役職	氏名
住 所	〒	
電話番号	FAX番号	
E-mail		

前回参加の有無 有 ・ 無